

市民・団体アンケート結果の取りまとめ（基本施策別）

基本施策 1	誰もが気軽に身近なところで文化・芸術に触れ、喜びと感動を享受できるまちづくり
--------	--

(1) 誰もが参加できる活動や体験、鑑賞活動の拡充

<市民> 満足度：低、重要度：高 <団体> 満足度：低、重要度：低

- 文化芸術を鑑賞した市民は 57%、活動した市民は 35%だが前回調査より減少。
- 鑑賞・活動しない理由は「仕事や家事で忙しくて時間がない」「きっかけがない」。
- 会場だけでなくオンラインも含めて鑑賞方法が多様化している。
- 豊富にある文化施設を有効活用できていなかった可能性がある。
- 鑑賞方法が多様化していることを踏まえて事業を見直す必要がある。

ア この 1 年間で文化芸術イベントを鑑賞した市民は約 57%で、前回調査と比べて約 25 ポイント減少している。特に無職において、鑑賞していない市民が多い。また、10～20 代では会場だけでなくオンラインでも鑑賞している市民が多く、鑑賞方法が多様化している。

イ 会場で鑑賞した文化・芸術分野の催しでは、映画、美術・工芸が多く、30 代以下では映画とメディア芸術が全体と比べて高い。

ウ この 1 年間で文化芸術活動を行った市民は約 35%で、前回調査と比べて約 7 ポイント減少している。

エ 鑑賞・活動しなかった理由では、50 代以下を中心に「仕事や家事が忙しくて時間がない」と「きっかけがつかめない」が多い。

オ 今後参加したい文化・芸術活動として、優れた文化・芸術公演の鑑賞を求める市民が約 52%。

カ 文化・芸術を体験することや行うことを大切だと考える市民が約 90%。

(2) 子どもたちの文化創造体験の拡充

<市民> 満足度：高、重要度：高 <団体> 満足度：低、重要度：低

- 子どもが文化芸術の鑑賞・活動するために必要な環境は「学校での鑑賞・活動体験」。
- 子どものいる市民は「子どもの世話をしてくれる人がいない」ため鑑賞・活動できていない。また、子ども向け・親子で参加できる公演・イベントや府中市郷土の森博物館等、子どもを連れて行ける環境を求めている。

ア 子どもが文化芸術を鑑賞・活動するために必要な環境として、学校での鑑賞・活動体験が約 56%で最も高い。

イ 鑑賞・活動しなかった理由において、30 代や 18 歳未満の子どもがいる市民では「子どもの世話をしてくれる人がいない」が多い。

ウ 今後参加したい文化・芸術活動として、30・40 代や 18 歳未満の子どもがいる市民では、子ども向け・親子で参加できる公演や文化イベントを求める声が多い。

エ 30代や18歳未満の子どもがいる市民では、この1年間で府中市郷土の森博物館を利用した割合が高い。

オ 子どもや若者が文化芸術に親しむ機会として重要な要素として、一人でも参加しやすい内容かどうか（約27%）、子どもを連れていける環境（約25%）が高い。30代では「子どもを連れていける環境」が約44%が最も高い。

(3) 文化に対する支援環境の整備

＜市民＞満足度：高、重要度：高 ＜団体＞満足度：高、重要度：高

3-1) 利用しやすい文化施設の運営

- 市内で鑑賞する市民が多く、各図書館や各文化センターの利用が多い。
- 各文化センターは70代以上の利用割合が高く、20代以下の利用割合が低い。
- 文化施設への交通アクセスの満足度は高いが、居住地域によって利用している市内文化施設にバラツキがある。また、市民の3割は市内文化施設を利用していない。
- 文化団体は文化センター等で活動しているが、練習・発表会場の確保が課題。

ア 市内で鑑賞した市民が約65%であり、東京23区内（約55%）より多い。特に無職では市内で鑑賞した市民が多い。

イ この1年間に利用した市内文化施設・コミュニティ施設では、各図書館（約34%）、各文化センター（約29%）が多く、利用目的は文化・芸術の鑑賞のため、又は学習のためである。ただし、この1年はいずれの施設も利用していない市民が約30%であり、実際に現在改修中の府中の森芸術劇場を中心に、前回調査から割合が減少している施設が多い。また、各文化センターは70代以上の利用割合が高く、20代以下の利用割合は低い。

ウ この1年間で文化活動を行った市民は、各文化センターの利用割合が約42%と高く、利用目的でも「文化・芸術活動のため」の割合が全体と比べて高い。具体的な活動場所は各文化センター、生涯学習センター、ルミエール府中等であり、文化団体の活動上の課題として約39%が「練習会場や展示会場、演奏会場などの確保」を挙げている。

エ 文化施設への交通アクセスに対する満足度は比較的高いほうだが、居住地域によって利用している市内文化施設・コミュニティ施設にはバラツキがあり、「身近なところに活動する施設や場所がない」と回答する割合が高い地域もある。

3-2) イベントや催し物などの情報発信

- 文化芸術情報の入手先は「広報ふちゅう」が約6割だが、30代以下は市ホームページやSNSを利用し、また求める声が多く、ライフステージにあった発信が必要。
- 更に多くの情報発信を求める意見が多く、情報発信の方法としては市内の展覧会や公演などが一覧できる情報やカレンダー（ただし前回調査より減少）。

ア 市内の文化・芸術分野の催しや文化活動に関する情報の入手先では、広報ふちゅう（約63%）、市内施設等の掲示ポスターやチラシ（約32%）、府中市のホームページ（約19%）の順番に多い。ただし、紙媒体は減少し、インターネット・SNSが増加する傾向にあり、広報ふちゅうは60代以上が利用する一方、30代以下の利用割合は低い。また、30代や18歳未満の子どもがいる市民では、府中市のSNSの利用が約27%で全体より高い。30代以下では、ホームページ、インスタグラムなどのSNSで情報発信を求める声も多い。

- イ 市内の文化・芸術分野の催しや文化活動に関する情報提供について、「満足しているが、更に多くの情報があるとよい」という回答が約 30%で最も高く、18 歳未満の子どもがいる市民では約 43%と高い。
- ウ 文化芸術活動に参加・実践するための情報として、市内の展览会や公演などが一覧できる情報やカレンダーが求められているが（約 53%）、前回調査と比べて約 18 ポイント減少している。

基本施策 2	文化・芸術の担い手育成とそれを支える環境をはぐくむまちづくり
--------	--------------------------------

(1) 伝統芸能や市民の文化・芸術活動の担い手育成

<市民> 満足度：低、重要度：低 <団体> 満足度：低、重要度：高

- 市内文化団体は 2000 年以降に設立された若い団体も多く、月 1 回以上、活発に活動している。しかし、構成員の減少と高齢、さらには広報・PR が課題であり、今後は団員拡大や活動内容の周知・集客に注力するとの回答が多い。
- 活動環境や施策への満足度は比較的低いが、施策の重要度も高くない。
- 市民ニーズと施策内容とのミスマッチが生じている可能性がある。

- ア 市内の文化団体は、2000 年以降に設立された文化団体が 1/3 超、月 1 回以上活動している文化団体が 9 割超。
- イ 構成員 30 人未満の文化団体が 3/4 超、主な年齢層は 60 代以上が 3/4 超。活動上の課題として約 71%の文化団体が「構成員の減少と高齢化」、約 36%が「広報・PR」を挙げ、今後注力する活動として「団員拡大を図るための募集」（約 46%）や「活動内容の周知や集客」（約 33%）を挙げている。
- ウ この 1 年間で文化芸術活動を行った市民は、プロと創作する文化・芸術イベントを求めている（約 28%）。また、文化団体が今後注力する活動も「活動内容や発表機会の充実」が約 49%で最も多い。
- エ 「文化芸術活動が困難な人たちや、活動を行う市民や団体への支援」や「地域のサークルや文化芸術の活動団体への支援」に対する満足度は比較的低い。

(2) 地域の芸術家に対する支援

<市民> 満足度：低、重要度：低 <団体> 満足度：低、重要度：低

- 文化・芸術活動を仕事として行った市民は約 4%であり、芸術家も 1~2%在住していると考えられるが、支援に対するニーズは高くない。

- ア この 1 年間で文化・芸術活動を仕事として行った市民は約 4%。内訳は自営業とパート・アルバイトがそれぞれ約 1/4、会社員と公務員がそれぞれ約 1/6 である。

基本施策3

歴史と伝統により培われた府中固有の文化を大切にし、新たな文化を創造するまちづくり

(1) 文化財の保存・活用

＜市民＞満足度：高、重要度：高 ＜団体＞満足度：高、重要度：高

(2) 地域文化の継承と活性化

＜市民＞満足度：高、重要度：高 ＜団体＞満足度：高、重要度：高

- 多くの市民が文化財や伝統文化に親しみを感じており、大國魂神社・くらやみ祭り・ケヤキ並木等、文化財への認知度は比較的高いが、前回調査より減少傾向にある。
- 年齢（30代以下）や居住地域によって文化財・伝統文化への認知度は低くなり、府中の文化的シンボルと連想していないことにつながっている。

ア 市民の約2/3が府中市の文化財や伝統文化に親しみを感じているが、前回調査からは、あまり感じていない市民が約7ポイント増加している。

イ 市内の指定文化財の認知度について、大國魂神社本殿・武蔵府中のくらやみ祭り・馬場大門のケヤキ並木は約8割以上、他に7つの文化財が約1/3以上の市民が知っており、特に武蔵府中熊野神社古墳は前回調査から約6ポイント増加している。ただし、30代以下の認知度は全体的に低い。また、居住地域によって認知度にバラツキがあり、文化財へのアクセス性も課題と言える。

ウ 府中の文化的シンボルと聞いて連想するものとして、大國魂神社が約92%、くらやみ祭りが約76%、ケヤキ並木が約56%となっている。ただし、30代以下ではくらやみ祭りとケヤキ並木の割合が低い。

エ この1年間で行った文化芸術活動で最も多いのは祭り・フェスティバルへの参加（約12%）だが、前回調査から約7ポイント減少している。

(3) 歴史、自然、文化が一体化した魅力的な景観の保全とまちの形成

＜市民＞満足度：高、重要度：高 ＜団体＞満足度：高、重要度：高

- 多くの市民が府中市を文化的なまちだと考えている。その要因として、伝統的な祭や行事、文化財の保存が挙げられているが前回調査より減少している。
- 美術・音楽などの文化芸術の催しが多いことが、本市を文化的なまちだとする要因になりつつある。

ア 府中市を文化的なまちだとする市民が約79%で、30代・40代では約84%。その理由として、伝統的な祭、行事、芸能などが盛んなこと（約78%）、文化財が適切に保存されていること（約56%）、美術・音楽などの文化芸術の催しが多いこと（約42%）が挙げられている。一方、前回調査と比べて、「文化財が適切に保存されていること」が約11ポイント減少し、「美術・音楽などの文化芸術の催しが多いこと」が約8ポイント増加している。

基本施策4

市内外から人々が集い、文化を通して交流とにぎわいが生まれるまちづくり

(1) 文化資源を活用した府中の魅力発信

<市民> 満足度：高、重要度：高 <団体> 満足度：高、重要度：高

○多くの市民が府中市を文化的なまちだと考えている一方、文化的なまちだと思わない市民もあり、その要因として広報・PR・説明不足が挙げられている。

ア 府中市を文化的なまちだと思わない理由として、「広報・PR・説明不足」が約42%で最も高い。

(2) 地域社会での連携及び交流機会の充実

<市民> 満足度：低、重要度：低 <団体> 満足度：低、重要度：低

○市内文化団体のうち他の団体・機関と連携している団体は約4割。連携先は他の文化芸術団体や文化センター、神社仏閣、病院・福祉施設であり、現行計画に記載のある企業・学校・近隣自治体との連携はほとんどない。

○文化を通して人々の交流活動を盛んにすることを目標に施策を実施しているが、満足度向上に繋がっていない。

ア 他の団体・機関と連携していない市内文化団体が約58%。連携している団体(約40%)の連携先は、他の文化芸術団体(約58%)、文化センター(約29%)、神社仏閣、病院・福祉施設(各23%)。企業は0%、小学校は約10%、中学校は約3%、高校は0%、大学・専門学校は約10%、町内会は約10%。

(3) 多文化共生の推進

<市民> 満足度：低、重要度：低 <団体> 満足度：低、重要度：低

○多文化共生の推進に対する市民ニーズは全体的に低い状況にある。

○誰もが芸術・文化を体験するために重要なこととして、交通アクセス改善や文化施設のバリアフリー化(ハード面)と、福祉・子育てや世代・障害の有無に関わらず連携・交流する機会創出(ソフト面)が挙げられている。

○高齢者は健康不安やコロナ禍への不安から社会参加が少なくなっており、幸福度が低い傾向にあることから、文化芸術を活用した社会的処方への検討余地がある。

○そもそも「多文化共生」という単語の認知度が低い可能性がある。

ア 誰もが芸術・文化を体験するために重要なこととして、交通アクセスを良くする(約48%)、福祉や子育て関連の団体・施設と連携して体験・活動の機会を増やす(約38%)、文化施設のバリアフリー化(約37%)、世代や障害の有無にかかわらない交流の機会をつくる(約34%)が高くなっている。

イ 文化芸術を活動・鑑賞している市民の幸福度・健康状態・社会とのつながりは比較的高いほうだが、60代以上や家事専業・無職では全体的に低くなる傾向にある。

ウ 鑑賞・活動しなかった理由において、70代以上の市民は「健康不安がある」と「コロナ禍で不安がある」が多い。このような観点から、文化芸術の社会的処方を検討できる可能性がある。